此の點で四川シホガマ節 Sect. Tibeticae に似た habitus（生育型）を示すが Sect. Axillares では，—— 例へばセリバシホガマ *P. Keiskei* の如き —— rostrum が眞直に伸び Sect. Tibeticae 中の四川シホガマ *P. torta* の rostrum が曲つて伸長するのと比較すると，明かに差が見られ，寧ろ Sect. Orthorhynchae への類似の方が强い。又，本群の一部は嘗つて Maximowicz氏や Prain 氏に依つて Sect. Siphonanthae 中に入れられたこともあるが，花筒が短かくて花冠形態上眞の Siphonantha 段階に達してゐない。

P. Keiskei を含む Subsect. **Keiskeanae**（セリバシホガマ亞節）を以て本節の基準型とするが，他に，葉序，花序に關し，又，花筒の未だ伸長せざる點でも，類似性の窺はれる Subsect. **Fallax** を本節に加へる。後者中にはお互に可なり異つた單型的の列 Series Integrifolia, Series Gyrorrhyncha 及び Series Franchetiana が屬するが，前者に較べて次節 Sect. Orthorhynchae への接近の度がより强い。

X. Sect. **Orthorhynchae**.

Siphonantha 群に相應して花冠形態に極度の進化を示し葉序が輪生となつた植物群である，殊に花冠嘴部 rostrum は最高度の發達を遂げてゐる。花筒は長いが Siphonantha に較べると平均して短い種類が多い。天山山系，ヒマラヤ東部，チベット高原を中心とし，西部ヒマラヤ，ビルマ北部，支那西南部にも分布する。

支那東北部，滿洲朝鮮，日本には及ばないから詳論を略す。

○マンリヤウの開花枝　（籾山泰一）

マンリヤウの新芽は六月頃に萠發する。まづ頂芽が開いて新しい主軸が伸出すとその主軸上の葉腋にすぐに側枝の出るのが見られるが，數枚の葉を附けるとこの側枝は生長を停止しその年は sterile のまゝで了り翌年の夏に至りその頂の芽が綻びて繖房花序になりこゝではじめて開花するやうになる。すなはちこの側枝は開花までに二年を費すのであつてヤブカウジやカラタチバナの側枝が出るとすぐに花序になり開花するのと少し趣を異にする。そして花後には結實するが秋冬に紅熟するその實は翌年の夏新芽や花の開綻する頃まで永く枝上に止つてゐて，株の上には今年の部分に枝葉のみが茂り二年目の部分に開花枝があり三年目の部分に結實枝が出て居て葉と花と實とが上中下三段に分れる。カラタチバナやヤブカウジに於ては今年の部分に新葉と花とがあり去年の部分に實があつてただ上下の二段に分れるに過ぎない。開花枝のこの區別は臺灣や南支那產の種類にもあてはまるやうだからこれはマンリヤウの類とカラタチバナの類とを區分する分類上の一標徵となすことが出來る。Walker の分類でいへば Crispae 中の小區分に當る。